

《最後の晩餐》とダ・ヴィンチの思惑～謎の手に隠されたもの～
The Last Supper and Leonardo Da Vinci's Secret Thoughts
～ What is the meaning behind the mysterious hand? ～

Abstract

Considering several scholars' researches regarding Pietro's right hand in *The Last Supper*, our hypothesis is that the hand holding the knife is actually Satan's hand. If it is true, we can perhaps reconsider how Da Vinci and his work have been regarded up until the present.

1. 目的

ルネサンスを代表する画家レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》についての考察を通して、宗教と美術の関係をとらえなおす。

2. 調査・研究の方法

《最後の晩餐》についての先行研究を批判・吟味し、この絵に幾つかの謎が隠されていることがわかった。その中で「ペテロとされる人物の右腕の不自然さ」に焦点を当て、自分たちの仮説を裏付ける根拠を、文献資料を用いて検討した。

3. 分析と考察

先行研究の多くは「ナイフを持つ手の不自然さ」には触れていないか、または「単純にデッサンが狂っただけではないか」と主張している。しかし、レオナルドはこの絵のために《ペテロの右腕のための習作》という詳細なスケッチを残している。そのうえ、解剖までして人体の仕組みを理解しようとしていたというエピソードもあり、デッサンが狂っただけとは考えにくい。そこで、私たちは「ナイフを握っているのは別の人物ではないか」と推察した。しかし、ペテロではないとすれば、配置的に当てはまる人がいない。そのことからここには人ではない何かが描かれていると考え、『新約聖書』の記述から「ナイフを持つ手はサタン(悪魔)のものではないか」という仮説を立てた。この説は管見の限りとなえられていない。仮説に従うと、従来は合理的・人間的な要素が強調されてきたレオナルドの人物像やルネサンスという時代に対し、宗教的な要素を含んだより多角的な解釈を提示することができるのではないかと考えた。

4. 参考文献

『Leonardo da Vinci 全絵画作品・素描集』TASCHEN 2007年
杉浦明平訳『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』岩波文庫 1954年
『The BIBLE 聖書 新共同訳』日本聖書協会 1988年 など